

# 新宿折をり

NO. 41

平成 30 年 12 月 19 日  
東京都立新宿高等学校  
進路指導部

- 一年を振り返り新たな決意を
- 進研模試の結果 (1、2 年)
- センター会場決定 (3 年)

## 「転んでもただでは起きない」

英語科 鈴木 久実

人生の岐路に立ったとき、どうしたら正しい選択ができるのか。その選択の精度を上げるためには、何度も失敗を重ねるしかない。人は間違いながら成長する。失敗して痛い目を見て、より良い道を探す。その積み重ねによって、より良い選択ができるようになるのだ。歳を重ねれば、重い責任ある選択に迫られることがある。その時により良い選択ができる人は、必ず若い時に多くの失敗をしている人だ。失敗から学び、徐々に選択の精度が上がっていくのだ。

とは言え、人生の経験が少ない若者が大きな選択をしなければならない時にはどうするのか。入学する大学を選ぶ時、君たちのほとんどは、人生における最初の大きな岐路に立つことになる。たくさんの選択肢の中から、自分が進む道は1つ。大きな決断を迫られる。どうしたらいいのか。それは、自分の選択に責任を持つことだ。進むと決めたら、進んだ先で頑張れば良い。そこで思うこともいろいろあるだろう。どうしてもダメなら、やり直せば良い。人生に無駄はない。どんな経験も自分のためになる。行った先で、多少気に入らないことがあっても、ここで学んでやろう、吸収できることを自分のものにしてしまうことが大切だ。転んでもただでは起きない。私の座右の銘だ。

転んで、ダメだった、自分だけなぜこんな思いをするのだろう、そう思ってもいい。大切なのは、そこから自分にとって有益なものを手にして立ち上がり、また歩み始めることだ。いつまでも、嘆いていては前に進めない。周りを見回してみれば、それほど悪いことばかりではないはずだ。切り替えることが大切だ。吸収できることは吸収し、自分の糧とする。それが、次の岐路に立ったときに生きてくる。

3年生は、今、初めての人生の大きな岐路に立っているだろう。どの道に進むか、自分で決心することがこれからの人生にとって一番大切なことだ。怯まず、大人への第一歩を自分で歩む。それがこれからの人生で次から次へとやってくる壁を乗り越え、自分が進むべき道をかぎ分ける力となる。2年生は、大きな選択をするための準備をすることが大切だ。理想の自分ばかり見て、現実の自分から目をそらしてはいけない。未来の自分に今の自分が責任を持つのだ。1年生は、時は永遠でないことを知って欲しい。高校生活はあと2年だ。いずれ大きな人生の岐路に立つことに備えてほしい。転んでもただでは起きない。そして、将来の自分に、今の自分が責任を持つのだ。

## □ 一年を振り返り、新たな決意を

今年も残すところわずかになってしまいました。あと十日ほどで2018年が終わります。今年一年どんな年だったか、この機会に振り返って自分を見つめ、来年の飛躍につなげてください。

一年前の今頃、1年生はまだ中学生で、高校受験を目の前にして必死に勉強していました。その甲斐あってみごと新宿高校に合格。希望を胸に入学してきたはずです。その時の決意をもう一度思い出しておきましょう。

2年生の皆さんは学校の中心学年として活躍した一年間でしたが、この先にあるのは3年0学期。今が切り替えの時です。2年生までに終わらせておくべき課題は、この冬休みから計画的に取り組み、ベストの状態です。3学年を迎えましょう。

そして3年生諸君。いよいよ追い込みです。実力を遺憾なく発揮できるよう体調管理に万全を期してください。四月には人生の新しいステージが待っているはず。 「つらいときには、四月に自分はどこにいるのか、そこにいる自分を何度も思い描いた」と先輩が合格体験記に書いています。意志あるところに道は開ける。頑張りましょう！

…と、やや気合いを入れて書きましたが、一番大切なことは、心と体の健康ではないでしょうか。思い通りにならないことがあってもあまりくよくよせず、人生万事塞翁が馬の精神で大きく構えることも必要です。受験結果は確かに大事ですが、受験だけで人生が決まるわけでもありません。少し気持ちをらくにして、これからの数ヶ月を乗り切ってください。

## ○進研模試の結果（1・2年）返却

11月6日（火）に実施した進研模試の結果が返却されました。全体的な傾向としては、1年生は数学と国語が堅調だった半面、英語の伸びに課題が残りました。2年生は7月の模試で

3教科とも偏差値を下げたので今回はV字回復を期待したのですが、ある程度思うような結果になったようです。もちろんこれは平均値の話であって、個々の生徒を見ると頑張っている人は大勢います。肝心なのは自分がどうだったかということです。平均偏差値は関係ないと言えなくもないです。

しかし、こうした平均値は教室での活気や学習意欲に微妙に影響するものです。

一人一人の努力が必要です。そしてその結果として、新宿高校全体で、じわりじわりと成績を上げていこうという気運が必要です。いま皆さんのクラスはそういう雰囲気になっているでしょうか？

自分の学習習慣をもう一度振り返ってみましょう。

## ○センター試験会場決定

センター試験の受験票が届きました。今年は以下の5会場です。

- ・東京農工大学 小金井キャンパス
- ・東京外国語大学
- ・東京女子大学
- ・杏林大学 井の頭キャンパス
- ・日本獣医生命科学大学

受験教科・科目の種類によって会場が割り振られているようです。3年生は自分の受験票で試験会場を確認してください。また、冬休み中に会場の下見をしておくことをお勧めします。

受験票と一緒に「受験上の注意」という冊子が配布されました。冊子右上に「重要」と書かれているように、とても大切な冊子です。冬休み中に冊子を熟読してください。例えば次のようなことについて書かれています。

- Q 受験票の確認のポイントは？
- Q 写真票に使える写真は？
- Q 当日、受験票や写真票を忘れたらどうする？
- Q 何分までの遅刻なら許されるのか？
- Q 上履きは持参するのか？

Q インフルエンザやノロウイルスに感染したら？

Q マークするのに鉛筆以外も使えるか？

Q 机に置いていいものは？

Q 集中するために耳栓は使えるか？

Q コート類を着て受験してよいか？

Q 座布団や膝掛けは使ってよいか？

Q 定規やコンパスは使えるか？

Q リスニングのICプレーヤーが不調の時は？

Q 直前の怪我で受験できないときは？

Q 当日の朝、電車が止まって間に合わない時は？

Q 追試の試験会場は？そもそも追試って？

これらは抜粋です。もっと重要なことも書いてあります。熟読してください。

1月16日(水)の3年生学年集会でセンター試験についての諸注意を行います。その時にこの「受験上の注意」の冊子を用いて説明しますので、当日は必ず持参してください。さらに、センター試験当日もこの冊子を会場まで持参することになっています。学校に予備はありません。もらったなら名前を書いておきましょう。

## ○センター試験自己採点 (3年)

センター試験の翌日は自己採点日。全員1時間目から登校してください。自己採点した結果

### 先輩からの言葉

## 「やりたいことを見つけよう！」

平福恵津子 (40回生) 精神保健福祉士・相談支援専門員

現在私は福祉分野で、障害がある方の相談支援の仕事をしています。これまで3回仕事を変えてきました。大学を選んだ時は商社に勤めていた父の影響もあり、国際関係の仕事がしたいと思って学部を選びました。大学3年時にゼミを選ぶ時にも、一つの国のことだけでなく、国際関係のシステムが学べるところに行きたいと思っていまし

は河合塾と駿台ベネッセにそれぞれ提出します。全国の高等学校で同じ作業が行われています。各予備校はこのデータを集計し、どの大学にどの程度の志望者が集まっているか、合格可能性はどのくらいかを判定してくれます。この結果を踏まえて国立2次の出願を最終決定します。作業は午前中には終わります。

## ○センター試験後の特別講習 (3年)

自己採点日の翌日、22日(火)から24日(木)までの3日間、3年生は特別講習になります。この講習は、それまでのセンターの勉強から2次試験の記述に切り替えるための講習です。近く、時間割が発表になりますので期限までに申し込みを行ってください。

### 【今後の予定】

- 全校集会 大掃除 12/25
- 特別考査1、2年 1/8
- センター決起集会 3年 1/16
- センター試験 1/19、20
- センターリサーチ (自己採点) 1/21
- 特別講習3年 1/22~24
- センターリサーチ返却 3年 1/25
- 国公立2次出願 1/28~2/6 (前中後期)
- 都立推薦入試 1/26、27

ような仕事に向いているのではないかと思いました。そして、その頃台頭してきていたベンチャーキャピタルを選びました。そこでは自分達が投資する会社を決めるという仕事に関わり、ベンチャー企業の実態把握や財務分析、外資系銀行とのやり取りなど、責任ある仕事も任されました。

ただ、その間何となく自分に合っている仕事ではないかもしれないという思いがわいてきました。

当時趣味で通っていた料理教室でお菓子を作ることも多く、「本格的にお菓子作りを学びたい」と思い、夜間の製菓専門学校に2年間通いました。そして、前の会社を辞めてお菓子作りができる職場を選びました。2番目の職場は精神障害者の作業所で、お菓子作りだけではなく、精神障害者の方を支援することもやっていました。このことが、私が福祉の世界に飛び込んだきっかけです。

最初は利用者の方と接する時には緊張していました。でも皆さんが優しく道具の使い方や材料の場所など沢山のことを教えてくださり、頭の中でいろいろ考えていた自分が恥ずかしくなりました。

精神障害は誰にでもおこる可能性があります、障害の理解が難しく、まだまだ偏見を持っている方が多いのが現状です。商店街の中でお店を開き、自然と利用者の方と接する中で、地域住民への理解を広めていきたいと思っていました。そして利用者の方が高い収入を得て、安心して暮らしていけるような職場を作りたいと思いました。

しかし、長男が小学校にあがるのを機に、子育てを優先しようと思い、次の職場にうつりました。3番目の職場は今行っている相談支援の仕事です。人と話すのが得意ではなかったのですが、最初声をかけていただいた時はお断りしていたのですが、是非にと言ってもらい、挑戦することにしました。

面接技術を身につけるため産業カウンセラーの養成講座に通ったことは自分の転機になりました。自分のことを話すだけで、とても気持ちが楽になることを実感し、人から話を聞くことが怖くなくなりました。そして今は様々な障害がある方からの相談を受けています。自分に話をしてくれるだ

けで元気になった、就職できた、病院に通えるようになったと聞くと、とても嬉しくなります。

こんな風に転職をしてきましたが、常に自分がやりたいことなのかと問いながら働いてきました。障害がある方にも希望や夢は何なのかを問いながら、夢に近づくために何をしていくのかを一緒に考えています。皆さんやりたいことがあると力が湧いてきます。すぐには「やりたい!」と思うことが見つけられないかもしれませんが、常にその問いを続けていくことが大切だと思います。

福祉の世界で日々感じているのは、まだまだやらなければならないことが沢山あるということです。自分で会社を興して活躍している方も多く、自分で世の中の仕組みの一つをつくりあげ、実践していくという目標も見つけられる仕事です。介護の仕事はどうしてもきつい仕事だと思われがちですが、確実に超高齢化社会が進行している中、福祉分野の中でみんなが働きたいと思えるような魅力的な職場づくり、仕組みが必要です。何か世の中を自分で変えてみたいと思う方、ぜひ福祉の世界に興味をもってください。

(朝陽同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。)